

♪「横浜アコーディオン愛好会50周年記念コンサート」ぶらり訪問記 ♪

日時：2017年10月9日(月・祝)13:30開演 会場：横浜市吉野町市民プラザ4階ホール

「横アコ」の歴史より・・・1967年前身となる「横浜労音アコーディオンサークル」が立ち上がります。1974年、労音が名称を変えたこともあり、「横浜アコーディオン愛好会」となります。発足当時から教室を開催し生徒を募集してきたので、受講者は300人を超えますがその卒業生を中心に現在11名の会員、10名の教室生で活動しています。この間、指導者も石原弘睦氏、清村杜夫氏、石居庸介氏、そして現在の森陽介氏へと替わりました。(プログラムから一部を転記)

司会の『さあ、アコーディオンの演奏と共に音楽の世界を楽しんでいきましょう』との発声で開幕演奏は、愛好会のメンバーによる「80日間世界一周」と教室生も加わっての「虹の彼方に」でした。



「虹の彼方に」演奏の様子

プログラムは、教室生11名の独奏から始まりです。「ダニー・ボーイ」「荒城の月」「ソナチナ」「イル・ポステイーノ」「黒い瞳」他を演奏。

習い始めて1～2年の方もいて講師がベースを担当するなど工夫されたり、舞台での演奏が初めての方には『緊張されているそうです、楽しんで弾いてください』と司会がとても上手でした。また、『現代はスピード時代ですが、ラクダの背に揺られてゆくのも人生かな』と「月の砂漠」を演奏されるなどアコと人生を感じさせる演奏もありました。

特別出演は、口笛と電子ピアノの「横浜サウンドストリーム」による演奏でした。最初の曲Con Te Partiroはオリジナルの歌詞はイタリア語で、「君と共に、(僕は)旅立つ」という意味のようです。続いて横浜にちなんだ曲で「うぐいす」(梅の小枝でうぐいすは 春が来たよと うたいます ホウホウ ホケキ

ヨ ホウ ホケキヨ)「赤い靴」「ブルーライト横浜」、客席と「ラジオ体操」まであり最後は長渕剛の「乾杯」を演奏、会場も一緒にエア・グラスを持ち50周年記念コンサートに乾杯する場面も。めずらしい演奏にお客さんも聴き入っていました。



休憩後は、愛好会メンバーの独奏が6曲続きます。最初は、牧歌的なタンゴの表現ができればいいなど「たそがれ」を、次は曲に秘められた悲哀が奏でられるように努力しますと「長良川艶歌」を演奏。チャイコフスキーの「ワルツ・メドレー」、初めて聴く曲で「青い列車」講師がガッタン、ゴットンとベースを付けていましたが、リズムカルで楽しい曲です。他にワルツで「ジェルメール」、タンゴの「フェリシア」です。

ここから重奏が2曲。まず映画でおなじみの「慕情」を5名で演奏。2曲目はタンゴで「夜明け」こちらは4名での演奏でした。

講師演奏はブラジルのアコーディオン奏者、シヴーカ作曲の「ジノが7弦ギターを弾いている」つられて身体を左右に揺らしたくなる軽快な曲です。



最後は合奏で「コーヒールンバ」他3曲演奏、いずれも横浜アコ愛好会の十八番でまどめています。「箱根八里」は尺八と鈴が入り、ちよつと新鮮な演奏となりました。また、アンコールに代え「ふるさと」を客席と一緒にうたい(写真)幕を降ろしました。(記:乙津)



♪千葉アコーディオンサークル「花とアコーディオンコンサート」ぶらり訪問記 ♪

日時：2017年10月15日(日)14:00 開演 会場：三陽メディアフラワーミュージアム

会場入りしたのは開演7分ほど前でした。コンサートは無料ですが、ミュージアムに入る券(入館料300円)が必要なので発券機で購入しようとしたら、受付の方がシルバー(60歳以上)の方は証明するものがあれば無料です。と声を掛けてくださったので免許証提示で入ることができました。

例年のことですが、ステージの周りはハロウィン仕立てにフラワーアレンジされていて明るく、子どもたちの声が響いていました。そんな中で、開演に先立ち、ミュージアムの担当者から「千葉アコーディオンサークルは、アコーディオンの美しい音色が好きな仲間の集まりで、この演奏会も10回目を迎えます。指導は森陽介さんで日頃の練習を通して一生懸命頑張ります」と紹介がありました。

オープニングは合奏で「サウンド・オブ・ミュージック、エーデルワイス、ドレミの歌」をメドレーで演奏。以降、アンサンブル、独奏、中合奏、合奏を織り交ぜながら途中休憩なしで約1時間のプログラムでした。司会はサークルのメンバーで、途中演奏しながら曲の紹介をされていました。

独奏は3人で、「トワイライト・タイム」(私も80歳を過ぎて人生のたそがれになり、年齢にふさわしい曲を選びました、楽しいたそがれを過ごしたいと思う)とコメントの後演奏されたのはシャンソンが大好きな方です。また、曲の持っている厳かな教会音楽の響きを少しでも表現できればと「主よ、人の望みの喜びよ」を弾かれたのは、9月の関東アコのシニアの部で入選された方です。3人目の独奏者は、千葉アコサークルを産み育ててきた方で、A・ピアノラの「S・V・P」を演奏。共に曲想の違う演奏でどれも素敵でした。

途中、サークル代表者(神山宏治氏)の挨拶

があり、このコンサートはサークルの最大のイベントであること、今日はあいにくの天気ですけど晴れていれば、青空の下でミュージアムに咲き誇っている花を觀賞し、多少センチメンタルになって、そういう環境の中でコンサートを楽しんでもらえればと話しかかったと述べていました。



司会の説明によると現在22名で、その全員で演奏するのが「合奏」で、全体を二つのグループに分け10名程度で演奏するのを「中合奏」、さらにそれより少ない4~5人で演奏するのを「アンサンブル」と呼んでいます。



アンサンブルでは「フォレスト・フラワー」(どこかロシア民謡を感じさせるメロディでした)、「芭蕉布」、「アマポーラ」(愛しい女性をひなげしの花にたとえて歌っているとのコメントです。リズムがしっかり刻まれていて聴きやすかった)。上の写真は「川の流れるように」の演奏の様子。3人だけれど客席に向かって音が出ていたし、メロディもゆったりとよく流れていました。他1曲演奏。

中合奏は、秋のメドレー「赤とんぼ、他2曲」とディズニーメドレー「ミッキー・マウス・マーチ、星に願いを、他2曲」。合奏は、オープニングと最後の2曲、「碧空」と日本民謡メドレー(下の写真)「会津磐梯山、他4曲」でした。皆さん音の通る力強い演奏で次回も楽しみです。(記:乙津)

